

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 27
2018. 7

TOPICS

1

作州地域10市町村および津山商工会議所と 包括的連携・協力に関する協定を締結



本学は7月13日、作州地域の10市町村（津山、真庭、美作市、鏡野、勝央、奈義、久米南、美咲町、新庄、西粟倉村）および津山商工会議所と包括的連携・協力に関する協定を締結しました。

本協定は、岡山大学、作州地域10市町村、津山商工会議所が連携・協力体制を築くことにより、広範囲な地方創生および人材育成に寄与することを目的としています。また、本学が全学を挙げて推進しているSDGs（国連の持続可能な開発目標）達成への貢献にも寄与するものです。3月に津山商工会議所と本学が締結した包括的連携協定に基づいて会議所内に開設した「岡山大学津山スクール」を拠点に、教育を基軸とした事業の展開を行うこととしています。

津山市内で行われた締結式には、関係者約140人が出席。作州地域10市町村の首長、松田欣也津山商工会議所会頭、榎野博史学長らが協定書を取り交わし、今後の連携事業の展開を期して堅い握手を交わしました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7750.html

TOPICS

2

大学院ヘルスシステム統合科学研究科 開設記念行事を開催

本学は、平成30年4月に新設した8番目の研究科である、大学院ヘルスシステム統合科学研究科の開設記念行事を6月23日に開催しました。

文部科学省の瀧本寛官房審議官（高大接続及び高等教育局担当）をはじめ、米国ウェイン州立大学のスティーブ・ラニア研究担当副学長、アーマド・エッセディン国際担当准副学長、システムエンジニアリング岡山の松田久会長（岡山経済同友会の前代表幹事）から祝辞をいただいたほか、自治体関係者や企業等代表などからも多数の出席がありました。榎野博史学長、妹尾昌治研究科長によるあいさつの後、東京大学総長、日本学術会議会長、総合科学技術会議議員などを歴任された吉川弘之先生による特別講演もありました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7709.html

文部科学省高等教育局長の祝辞を代読する瀧本審議官



最近の大学の取り組み

平成30年7月豪雨による災害について



岡山県内の全DMATが集結し、協働で運営する救護所で、まび記念病院の患者さんに応急処置を施す岡山大学病院DMATのスタッフ

を回りながら、学生・教職員への情報提供や安全確保のための指導を行っています。21日には、日本財団学生ボランティアセンターと連携し、岡山県総社市内、28日には岡山市東区でボランティア活動を行いました。

岡山大学は、教職員・学生が一丸となり、地域を代表する国立大学として、「手をつなごう岡山」を掲げ、地域の皆様と一体になってこの状況を乗り越えていきたいと思ひます。

参考 <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/heavyrain.html>

TOPICS

3

平成30年7月豪雨に伴う 災害ボランティアの説明会を開催

平成30年7月豪雨に伴う、災害ボランティアの説明会を本学津島キャンパスで開催し、学生ら237人が参加しました。

加賀勝副学長(社会連携担当)、地域総合研究センターの前田芳男副センター長・教授、全学教育・学生支援機構スポーツ支援室の鈴木久雄教授、危機対策本部アドバイザーを務める大学院ヘルスシステム統合科学研究科の青尾謙講師が登壇。ボランティアにおける注意事項や学内での手続きなどについて説明しました。青尾講師は、被災者が必要としている支援が多様であることを踏まえ、「自分にできること、必要なことを考え長期的に支援することが重要」と話しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7719.html



TOPICS

4

特別講演「SDGsで変わるビジネス —未来から今を考える—」を開催



本学は7月11日、岡山経済同友会、岡山ESD推進協議会との共催で、特別講演「SDGsで変わるビジネス—未来から今を考える—」を岡山国際交流センターで開催しました。

日本におけるSDGs研究の第一人者である、慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科の蟹江憲史教授が、SDGsが示す新たな成長戦略の方向性、企業や地方自治体の取組事例などについて講演。

岡山経済同友会会員を中心に、一般市民、大学生ら110人が参加しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7722.html



TOPICS

5

2018年「岡山大学ライデン大学日本語日本文化研修プログラム」受入留学生による 「地域文化研究」発表会・プログラム閉講式を開催

本学グローバル・パートナーズは6月27日、「岡山大学ライデン大学日本語日本文化研修プログラム」受入留学生による「地域文化研究」発表会・プログラム閉講式を開催しました。

本プログラムは、オランダ・ライデン大学人文学部との連携の下、2018年度に新たに開始したプログラムで、日本語力の向上や日本文化の理解、学生交流を重視したプログラムです。4月から6月末までの3ヶ月間受け入れを行い、1期目となる今回は23人が参加しました。

受入留学生による「地域文化研究」発表会では、スライドを使用しながら、研修期間中に一番印象に残ったことについて発表。堂々と発表する姿は、本研修での成長を感じさせました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7748.html

PRESS
RELEASE

1

動物と藻類の共生の謎を解明 ～ヒドラと共生クロレラの栄養の相互作用と進化をゲノムから読み解く～

岡山大学臨海実験所の濱田麻友子助教らの研究グループは、ヒドラとクロレラの共生関係の謎をゲノム解析によって明らかにしました。これらの研究成果の完全版が6月27日、英国の科学雑誌「eLife」に掲載されました。

動物と藻類の共生はサンゴやクラゲなどさまざまな動物で見られ、栄養の交換や安全な生活環境の提供などお互いに利益を与えあう関係を築いています。しかし、この共生システムにおける具体的なやりとりや、その進化の過程はよくわかっていませんでした。今回、緑藻クロレラが共生するグリーンヒドラの遺伝子を解析することで、クロレラからヒドラに光合成産物を与えることで、ヒドラからクロレラへのアミノ酸などの栄養供給が促されるという協調的な栄養のやりとりがわかりました。また、共生クロレラでは、ヒドラから供給されるアミノ酸を取りこむための輸送体遺伝子が増加している一方、通常の植物にとって重要な硝酸同化システムは退化しており、ヒドラの体内で効率的に生きるために特殊化していることがわかりました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id559.html

